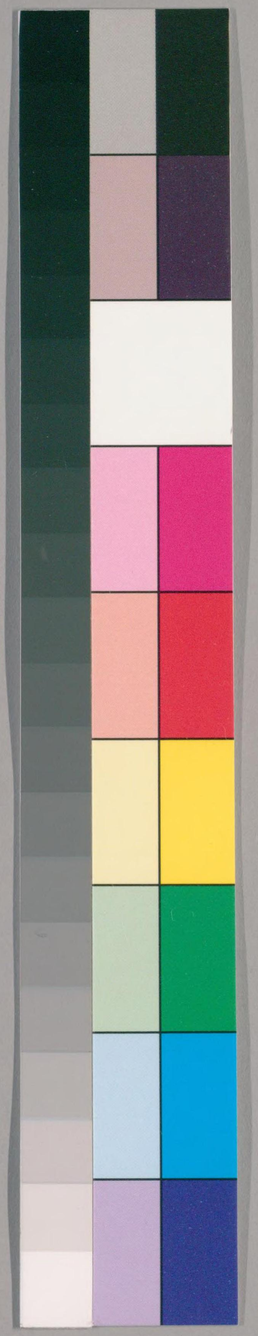
うつほ物語　九、十

は
15
17



国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

宇津保物語

吹上 上

正本 下巻

古本六の巻

今板本十の巻

は
30
17

東京圖書館

和書門
文類
函 別ヌ
架 一ノ二
號 ム五
冊 三〇

貴

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

巻のわき紀伊守吹上の行幸その次神泉の江のあそびのつきの巻 一名春日詣 源氏すゝしの巻 一名夏の九の月仲忠と関白とをあはせ 廿二歳 まきる巻 一名秋のつき 三ことを兼ねたる吹上の巻 一名秋のつき 一名梅つぼ 第五春日詣 第六吹上上 第七吹上中 第八吹上下 第九吹上下を退くてかへし 第十のまきる 会ひ見るまでの次第 第十一のまきる 俊蔭の孫 第十二のまきる 俊蔭の孫

東京図書館蔵 故榊原芳野旧蔵 嵯峨実慶筆本 嵯峨実慶筆本 帝室御書

源氏梅木 一名梅つぼの巻

くて八月中の十日のほどよみ
ん事ども思ひ給へ
そしく給へ 海のほとりの面白
いはうとの世給へ 殿人お將
ありく八月中の十日山のさと
ゆく九月ばかりの十日
小倉山嵐 野分 小倉山
山もん伯 まま 山の中
ありのすさび人ちよ
うのうちもん そこ 風
ぬ

源氏梅木
一名梅つぼの巻

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

殺害

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

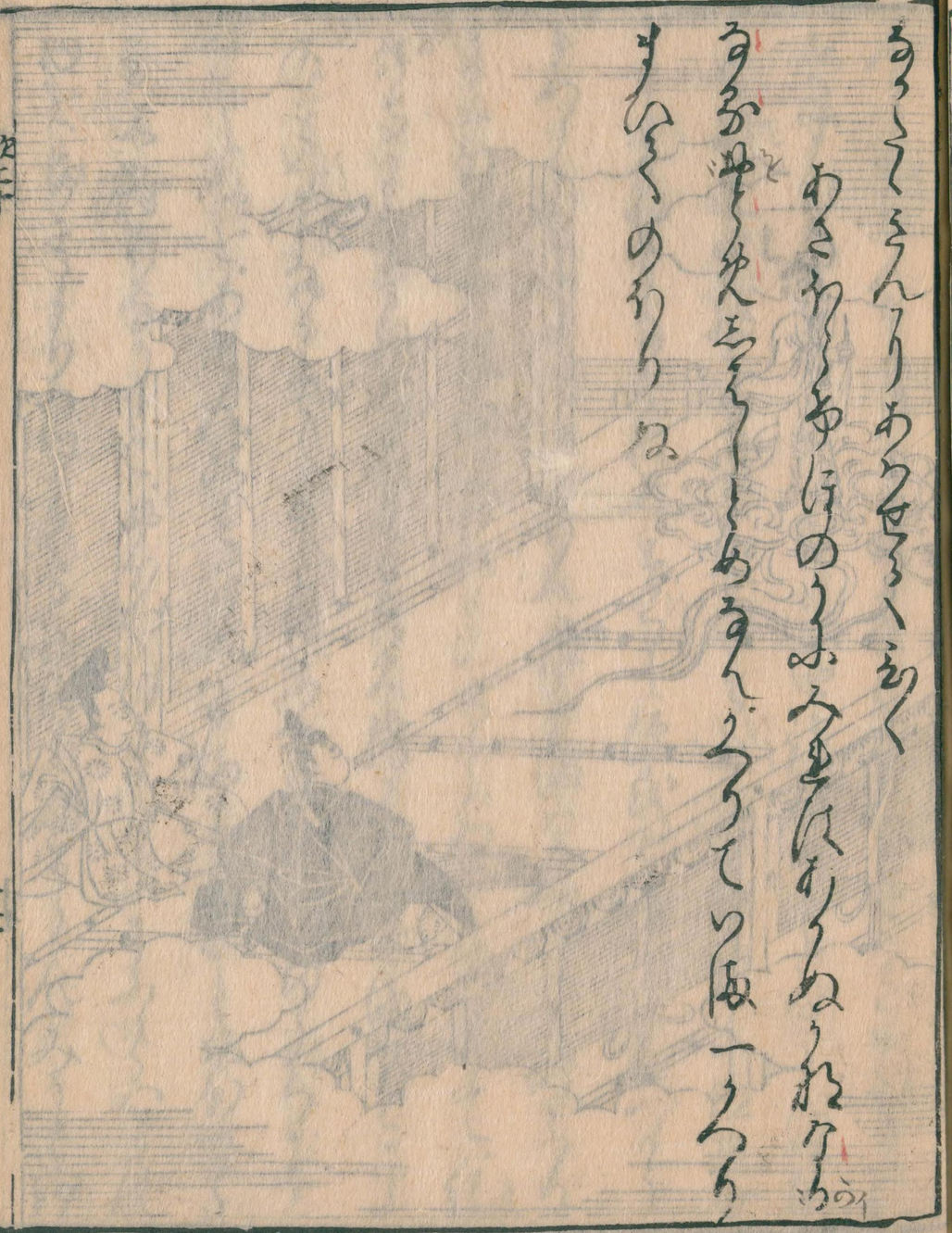
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

逢莱のさとより不死のエラ

キシロヒ

李白詩
雪片大如金長

仙人天の語を聞き



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

ゐもいろいろわるものどもゆゑく。そくゐのうへ
くゞなどゝもをねたれつゝ
くゝりてやうのかりぬ。浣(くん)のみ
ゝせ給ふ。うちゝの朝臣(わうん)うへ
てよきことゝうちまほ。ゐやゆゑ
なり。こうれうへ。ゝをゐ
つゝうのゐやゆゑひとうれ
く。三十もんそをもちそ
北舎(曲)のうれゐやゆゑ(ひ)
ゝうをゝまほ。中ね(ひ)
つゝうれて。ゝ六年ようう
ゐんなりぬる。つゝまよ

つゐ(ひ)ゐやをまよう(ひ)
ひまほ。おゝひれ(ひ)ゐをまほ
のゝつゝあ行(ひ)ゐ(ひ)
ゐてあのく。山ゐ(ひ)
つゝ多(ひ)ゐ(ひ)
明(ひ)ゝうなひ(ひ)
ゐゝん(汝)ちゝうて(ひ)
世ようのうんせゐ(ひ)
やうゐ(ひ)ゐ多(施)
ふ(ひ)ゝねをゐゝんとや
つとゝうゐ。ゐゝんを(ひ)ん(ひ)ゐ。

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

（脱文記上）

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

法句譬喩經無常品
曰昔佛在王舍城竹
林園中說法時在梵
志兄弟四人各得五通
却後七日皆當命盡
至一云言入須弥山中
還合其表舍無際
現無常殺鬼安知
吾処云云王乃悟回四
人避對一人已死其
余豈豈三人豈得獨
免云云

○天台釈云山海空
市無遁避所と
いふはこのことし法
の世のつねなき
四切上人の
ことわりいふ
はかなきうたかた
も人めもしげき
もみぢ葉
よりもしぐれ
よりもおちまさる
らん

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

[illegible]のあるやうに月・太将[illegible]
[illegible]月いとしろきを[illegible]
[illegible]そうの[illegible]中納言[illegible]十月つごもりの日
[illegible]とうの[illegible]衣やぬぎてとらせつ[illegible]
[illegible]りつつ[illegible]りきこ[illegible]のみこ[illegible]のみちの
[illegible]ことよつひさく
[illegible]ぬうくそむるまゝに神[illegible]月[illegible]
[illegible]のみこ[illegible]中将[illegible]宇治[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の中将
雲[illegible]
[illegible]ゆくへもしらぬ[illegible]
[illegible]ぬるそ[illegible]ものうき[illegible]
[illegible]人[illegible]あれ[illegible]こそは今[illegible]
[illegible]るまゝに[illegible]
神無月雲[illegible]
[illegible]のこゝろ[illegible]
[illegible]
神のうらにもうくる[illegible]日

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

は
30
17

一本あきつ度
校訂ていし

寛政八辰十一月廿二日校畢

平春海

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

は
30
17

東京圖書館
和書門
和文類
別
函
一〇一
架
ナ二
號
三の
冊

宇津保物語

菊の宴 一

古本九の巻

今校本十の巻ノ二

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

東圖藏書

故板原

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

そのゆゑそのゆゑ、なほえのこと人ばかりそれを
ぬしみ給ふれど、なほ人わろくこちたきものを
のみよきりとうるさくおぼしたり。辛崎さかしき
あるじ、えもいはずあるやうあり。学問(がくもん)のいやしくて、式部(しきぶ)の丞(じょう)宰相(さいしょう)とみ
ゆるやうもこの君のおぼつかなく、まゐりたれば
うれしくおぼしたり。まゐりたれば、なほ
てまつりたまふを、うこさんのはつかに
うちみ、まゐりたまへば、
ろよばかりつ、えのこと物をだうの人のやうに
世(よ)おこれど、ゆゑのそれど、ゆゑ
ゆゑ、この君の給ふやう、大将
うつつ、えみつ、ゆゑ、
もえみを、仲忠(なかただ)
こもれど、つよくおぼしたり
人のほどやうにそむ、ゆゑ
給つるつ、ゆゑ、
生(い)もまつの物つくり、
むつ、ゆゑ、
ぐ、えさらぬなれ、

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

くてえねのやうくやまうでぬ給ふ。
ゑうもおくくうにいまことのことうまやう。
えうゆかり。ものまをそのことまうつるゑ。ふで
をとうくことをして侍也。
えいうびそぐぐうをはのみて平中
絵云いて物ゝとりつるふ。源宰相ゆかり
ゆふ。ふいうてゑうまりつるれ乃やうぐこれう也
まうんおうせうくぞ。おうぐ
ほ
物ゝうつまゝえまいて物ゝとほ
やゝうこれまよりてゝ
ゝうをゝ物ゝうをゝなうん

有識

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

ぞれ[お]ま[い]つ[き]ゝ[て]ら[い]ふ[こ]べ[す]ま[い]つ[で]ら[い]の[こ]こ[な]そ
びの[お]ぢ[こ]ともいえやゝ[こ]そ[お]ぢ[こ]ゝ[ま]ま[い]つ[き]ゝ[て]ら[い]ふ[こ]べ[す]ま[い]つ[で]ら[い]の[こ]こ[な]そ
まいつきてらいふこべすまいつでらいのここなそ
やいなぢのこゝろふ[こ]く[お]ぢ[こ]ゝ[て]ら[い]ふ[こ]べ[す]ま[い]つ[で]ら[い]の[こ]こ[な]そ
ぢ[こ]ゝ[て]ら[い]ふ[こ]べ[す]ま[い]つ[で]ら[い]の[こ]こ[な]そ
ぢこゝてらいふこべすまいつでらいのここなそ
そ[お]ぢ[こ]ゝ[ま]ま[い]つ[き]ゝ[て]ら[い]ふ[こ]べ[す]ま[い]つ[で]ら[い]の[こ]こ[な]そ
ぢ[こ]ゝ[て]ら[い]ふ[こ]べ[す]ま[い]つ[で]ら[い]の[こ]こ[な]そ
ぢこゝてらいふこべすまいつでらいのここなそ

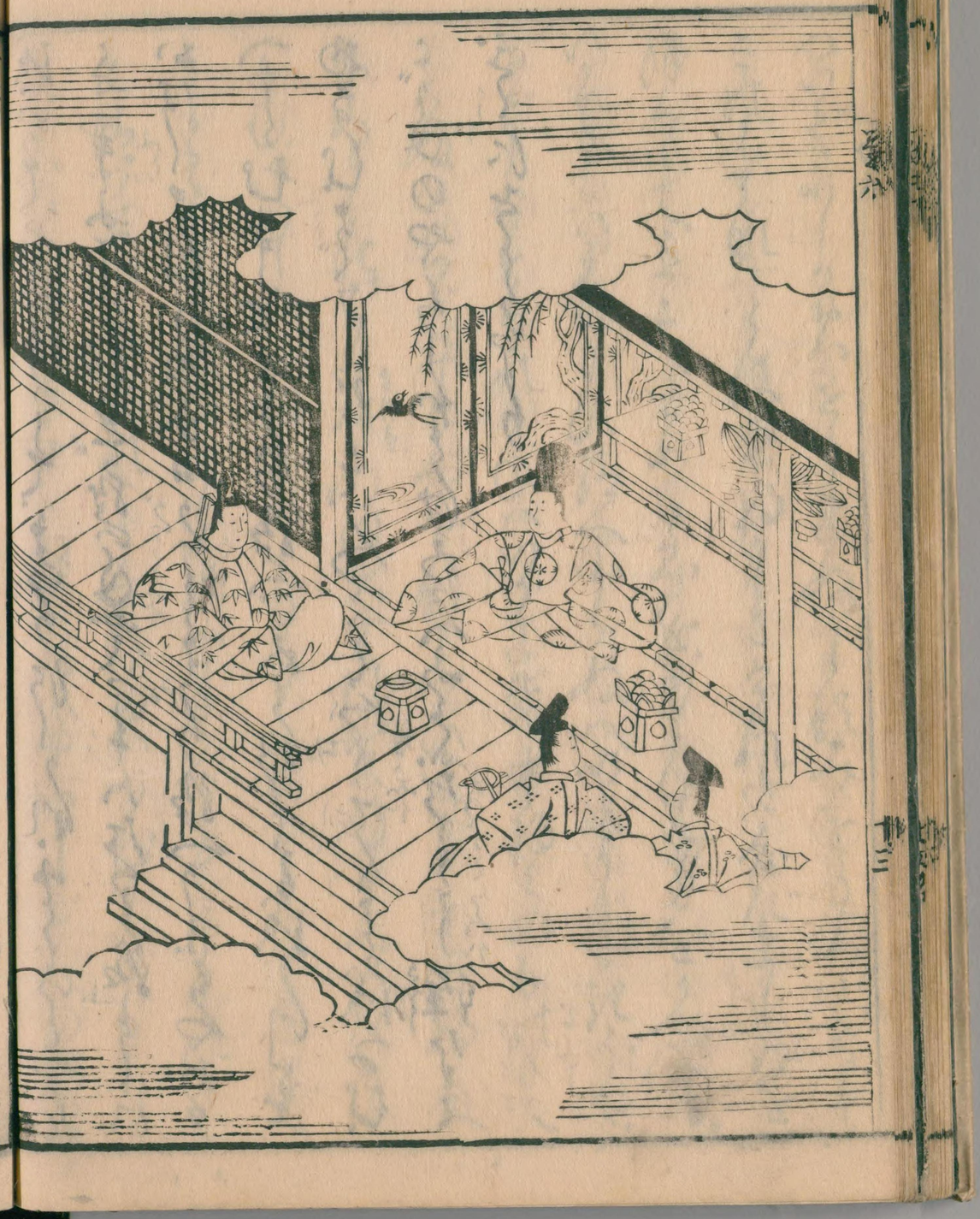
（一日）うちやみてくらけなうちに、ことそれたびぬ
きものらをみだいでふくるまゝ
とぢこめさせんとせしとてうち
こそこそあつまりおほくの
くしをさゝえおほくてうちを
かこみてもりあかしつゝ
くあそびすうちつまれてすわたに
（以下中納言源中将のそまに
てうちんをとうたてそれをふそ
とうふ。おほんのみこ源中納言
うち侍る。うちにけうさまし。いぐうつゝ
き。うちつけのさむじぐうち。
試みたれてうち。敵中
ばあや。あれ。そこのりて
てたくへうち。すけぞのあそむ
まぬ。里のさふらひ侍る。あれ
まうの網をふのぞえう侍る。
人よりのやなずとそれあそむるふんばえ
う侍る。山ずのぞえるむあうさぬやゆれ
まさのあそをふうえう侍る。ふぐゆいのぞえれ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17　　ガラス使用

つゝぐみうみおをとゝまめうそ
これそれぢは。ゆおうとそ
ほらて。ふそそめうおとて。
いそでといえりひ給へまぬかとうこれうや。
ぶゞうそうれそひいうよ。中ねこのみれ
くうぬくらぞすうやれどう
えめうひくそ右乃れ六十
そひれつひやうぶうそ。ふうそ
うどもを。ひやみれみ
えおせ乃それをにあいめひーうみ
よ。えのうへまんやぶねゆぶうぞの給う

給いそでうふして。まりに
こまおそな思。給ひそいたまれ
おはまめ。みひこまま
べうまをせまお給へ。えめ
ねるひ。ぶてて。ふこそ
こぶのやらかうひふへみ
うにをうり

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用



いろるくも
廿四ウラ又各

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

次郎 脱文ヵ

ずゝうちうちおもひあまれたらん
まいとゝもひつゝ霜脱文ヵ
まんまるりぬ。おもひづゝうへの
ゆうう
梅ごゝろ紙
ちとやぬう神のまへみ
とをいのうへのふう雪紙
散るまみ
よあまどうひうさ。
えうう。おとうや

みのうへの雪かみつもつ
みうへのうれさ。あるみづう
なうねのうへおせうづゝ
の夜
そゝごひづうう
しやあねがみそみう。
うそうほうく
おうほそひづう
小馬汚へうも。
ものう雨ふうみとをみよ
ふくまれう衣をう

かしの仕立ての

河一百巻

かみとうとい河

わらべ共みづからをおとなしくもてなすを
きゝつがくてをのれをおとなしくもてなすよりあやまち
やすくなをのまゝにもてなしてひとにくまれそしられ
給へ。むづかりてひとにくまれそしられ給へ。
ときつかひらもはらだゝしくおもひてうとみそしる
のみならず。ほかにてもそしりうとまれ給へ。
いうほどにてをのれをおとなしくもてなすのみぞ
さいわひまことにおいてもよしとおもひ給へ。
移らうまでなむをけるをきゝ給ひてよせ給ひ
ぬ。ほかにてよせ給ひ。ふかくてよせ給ひ
でゝぐしもあうべきやうをおしへ給ひけり。

うちうちやくそくしびやうぶのかみのむすめ
四月祭のびらうにまいりあひてかへりたまふ
てうとうにほうあうべきやうを

左大将

忘なんとだのめしことの葉ぞうたてかりける

二月人のもとよりそれぞのあるをいまくゑ

式部卿

ふるもりの人ぞともなくわすれぬるいく世の後をみるよしもがな

三月つごもりにかへしたてまつるとて

源中将

みそぎ川ゆく末遠くたのめおかんうきなをすゝぐ

七月八日の夕暮れつかた
頭中将ゐたり
中将すのこ
紙冠ゐたるやうにて
八月八日の夕暮よりをあり
池のもみぢもうつろひ
七月七日ぞ
ひと日ふたよをわかれ

八月十五夜
九月九日
結緑ゐたり
中将ゐたり
十月ばかりのあるじ
十一月ばかりの
左大弁
氷
二条の君

十二月仏名しける夜

中将みくしげ殿

をていのうえのすみわたりてまいりやくだちけるに

ゆきいとふかくふりたるを

弾琴人 楽 舞人

みのさきさえてふくかぜまじりにおもしろきに

ちおをうちよりてうたひたるこえのうちにまじりて

ほのかにきこえたるいとあはれにおもしろくて

とけしきろねのほどさびしくてみいでたるに

をとこのうちみてゐたるもの

それかはまいりてまゐりぬとてたちぬるを

たえまにかはをとしてまいりぬるをのこどもそ

のうちにをとこのいとあはれにおもしろくてまゐりぬる

よしをいひいれたるをきゝてまゐりぬるをのこ

ども

地をけ津さ歩つれ舞

さてひちりみてうたひたるこえのうちにまじりて

ほのかにきこえたるいとあはれにおもしろくて

とけしきろねのほどさびしくてみいでたるに

をとこのうちみてゐたるもの

それかはまいりてまゐりぬとてたちぬるを

たえまにかはをとしてまいりぬるをのこどもそ

のうちにをとこのいとあはれにおもしろくてまゐりぬる

よしをいひいれたるをきゝてまゐりぬるをのこ

ども

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

いかゞこゝろとゞまよろづもの給
にまひ給ふ御ぞどもあやしげ
いろ〳〵ゑらひとゝのへてみどもに
けどころせくこゝろのくまも
なくおぼしよりけるひぞれ
ぬのいろ〳〵ゑみつゝてあそぶ
ゑうちとけてめしそまうけ
御こゝろのせいこそやうやう給ふ
みどもへ給ふそおぼしめ

うちいでさせ給ひけるにあこ君
わひしきごろうづきてまいらせそめ
もの給ふくことをうえいづくあるよ
おくびやうそくいかゞとこゝろぐる
きこゝろのえことそうこそいあり
けこそおぼしめしそこゝろふ
まうり給ふたゞいまきこえ
ぬるぞ。ゆゝしうさみだれ
將ふれるころむしのそよ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

類聚雑要云
夫額髪二流髻
釵子彫櫛二枚
本結

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17
ガラス使用

は
30
17

寛政八年十一月廿四日校畢

平春海

うこてさきいろ〳〵ゑみてこのおそろふもの
をゐむ〳〵このこゝろをしりてまでこれをもう
てきよふひ給へだにもむうしこゝろえ
ちぬさきのこゝやうだにうけ給りなんと
さら〳〵ぶざまにてもそいはゆめ
いえものすまでうてそ物にあれ
うしろをだにうをいとうう物にてむまにはりり
ますらみやおうんさうえてひうくなりめるし
と、ううえまつまうて、うひくの給へばよらひ
つゐでよとうくうをゐ、わさうしうえるしさうらふ
うひだにうとうくうをゐむ、あそうたに

は
15
17

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 は-17